

(様式第1号)

令和4年度長野県公衆衛生専門学校評価表

長野県公衆衛生専門学校

第1 重点目標

1 中・長期目標

歯科衛生士法に基づく専門的知識や技術を積極的に学び、地域社会に貢献する意識をもつ学生を養成する。	
取組状況	歯科医療業界の近年の状況や課題、地域特性を取り入れた講義や実習を実施し、学生が卒業後に地域社会に貢献する意識を高めた。さらに、その地域で抱える課題を意識し、現場の実習において理解を深められるよう努めた。 日々の授業・校内実習や臨床・臨地実習を通じて、学生自身が生涯、歯科衛生士として働いていくという自覚とやりがいを持てるよう取り組んだ。
今後の取組	今後も引き続き、学生が歯科衛生士を目指して主体的に授業や実習に取り組めるよう、支援していく。
評価	適切

2 今年度の重点目標

長野県歯科口腔保健推進条例に謳われているオーラルフレイル対策等の新たな知見を教育に取り入れ、現在の歯科医療業界のニーズに対応した人材育成を図る。	
取組状況	歯科医療の最新情報を講義に取り入れるとともに、専門分野の講師による特別講義等を実施し、現場での実践方法や新たな知見を導入した。 また、信州保健医療総合計画の施策の展開に基づき、摂食嚥下機能や訪問歯科診療に関する講義や実習を行っている。今年度は口腔機能低下症の判断基準となる舌圧測定器や口腔水分計を購入し、授業で活用している。今後も、オーラルフレイル対策の一端を担える歯科衛生士の育成を図っていく。
今後の取組	技術の発展に伴い進化する歯科医療機器や新たな口腔ケア資材等について学習できる機会を増やしていく。また超高齢化を見据え、摂食嚥下機能等、高齢者に関する全身タイプのシュミレーターを導入し、実習・演習に取り入れる。
評価	適切

<p>キャリアデザインを意識した教育を行い、個々の特色を生かした就職活動を支援する。</p>	
取組状況	<p>就職対策講座やキャリア形成のための特別講義等を行い、学生が理想の歯科衛生士像を思い描くための働き掛けを行った。さらに歯科衛生士の職域の広さを知ること、生涯に渡って歯科衛生士として働くための意識が高まるよう努めた。</p> <p>また、学活や個別進路指導で自分の適性や就業の責務について振り返る場を設け、就職活動につなげるよう努めた。</p>
今後の取組	<p>3年生については、学生が自分の特徴を理解し、明確な目標をもって卒業までの過程を進めるよう引き続き支援を行う。さらにその目標を就職活動に活かしていけるよう、個別指導を充実させていく。</p>
評価	<p>適切</p>

<p>理念、目的、育成人材像、特色等をこれまで以上に広く広報し、本校の魅力を発信することで学生募集に努める。</p>	
取組状況	<p>学校公開を年6回行っている。特に体験入学と模擬授業では、好評だった内容を踏襲し、学生と参加者のコミュニケーションの時間を充実させることで、歯科衛生士の職業理解と学校の特色の発信を行った。参加者アンケートから、「歯科衛生士の仕事により興味を持った。」「学生さんがとても楽しそうで、雰囲気もいい学校だと思った。」などの意見もあり、学生を通して歯科衛生士の仕事や本校の魅力を発信ができたと考える。</p> <p>中南信地域の高等学校を訪問し、学生募集を周知した、また、地域の関係機関主催による高校進路指導者を対象とした説明会で、本校の魅力を伝え、学生募集に取り組んでいる。</p>
今後の取組	<p>当校を地域住民にも広く周知するために、報道機関へのプレスリリースを積極的に行い、行事等を取り上げてもらえるよう、働きかける。</p> <p>学校公開により多く参加してもらうために、申し込み方法をデジタルツールを活用するなど見直していく。</p> <p>ホームページ等で歯科衛生士業務の魅力発信等の充実を図るとともに、当校の特色を発信していくことで、学生募集、強いては歯科衛生士の確保をめざしていく。</p>
評価	<p>ほぼ適切</p>

第2 評価項目

1 教育活動

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切: 1
・学校の教育理念、目的、目標を定め、育成する人材像は専門分野の特性を生かしているか。	④ 3 2 1
・教育理念等が学生・保護者等に周知されているか。	4 ③ 2 1
・育成人材像は歯科医療業界のニーズに沿っているか。	④ 3 2 1

① 課題

学生や保護者に対して教育理念等の周知はしているが、頻度が少ない。

② 今後の改善方策

ホームページ等を通じ、さらなる教育理念の周知に努める。

学活や後援会、保護者会などの機会に教育理念を周知していく。

③ 特記事項

専門分野の特性を生かし、社会や業界のニーズに対応した人材育成像となっているか常に意識する。

(2) 学校運営

【運営組織等の機能有効性】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切: 1
・教育目標に沿った事業計画が策定されているか。	④ 3 2 1
・運営組織は規則で明確化されているか。また、有効に機能しているか。	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	④ 3 2 1
・予算執行が適正になされているか。	④ 3 2 1
・コンプライアンスが実践され、また実践のための体制が図られているか。	④ 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

学校運営協議会での意見等を踏まえつつ、今後もホームページ等を活用し学校運営状況の公表を図る。

③ 特記事項

特になし

【学校案内と学生の確保】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切: 1
・学校案内等の各種資料を作成、配布し、広く情報提供を行っているか。	④ 3 2 1
・学校公開を開催し、本校の魅力をPRしているか。	④ 3 2 1
・関係団体等と協働し、学生確保に努めているか。	④ 3 2 1
・令和5年度の入学定員を確保できたか。	4 ③ 2 1

① 課題

歯科衛生士という職業の認知度が低く、歯科衛生士養成校への関心が薄い。その影響もあり、入学希望者数が減少している。

② 今後の改善方策

各報道機関へのプレスリリースをはじめとし、ホームページ等を活用し学校の情報公開とともに歯科衛生士について広く周知することで、本校の認知度を上げ、魅力発信に努める。

学生確保については、令和5年度に入試制度を見直し、より優秀で地域に貢献できる人材を確保できるよう、検討していく。

さらに学校の特色をより理解されるよう、学校案内の内容を見直していく。

学校公開の申し込み方法をデジタルツールを活用するなど見直し、より参加しやすいよう改善していく。

③ 特記事項

知ってもらう、見てもらう、体験してもらう、この3つのカテゴリーを計画的に企画、運営し歯科衛生士養成校として発信し、学生確保につないでいく。

【ホームページの充実】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切: 1
・本校の魅力を発信するホームページとなっているか。	4 ③ 2 1
・受験生への情報等、必要な情報提供が適切に行われているか。	④ 3 2 1

① 課題

歯科衛生士の特性を活かした写真で講義風景や地域と関連した実習、各種行事等の内容を公開しているが、学習状況の具体的発信が少ない。

② 今後の改善方策

学校での講義や実習風景等をカリキュラムと併せて発信することで、高校生等に入学後の具体的な学習状況や学校生活スタイルをPRする。

③ 特記事項

特になし

(3) 教育活動

【教育理念に則った教科活動】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切: 1
・教育課程は、教育理念、目標等に沿って体系的に策定されているか。	④ 3 2 1
・キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立った科目等が設定されており、関連団体との連携による工夫・改正など内容の見直しが行われているか。	4 ③ 2 1
・授業評価を実施する体制は組織されているか。	4 3 ② 1
・教員が先端的な知識・技術等を習得するための研修や指導力育成など、資質向上のための取組が行われているか。	④ 3 2 1

① 課題

科目により授業評価を実施しているが、学校全体として評価する体制が構築されていない。

② 今後の改善方策

学生アンケート等で授業に関する意見を集約する方法を検討する。

③ 特記事項

模擬患者実習等、臨床に即した実習は技術習得に効果的であり、実践力も向上していくため、今後も関係団体の協力を得ながら継続していく。

【授業・実習内容の充実】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切: 1
・グループワークなど様々な授業方法を取り入れ学生が主体的に学べるよう支援したか。	④ 3 2 1
・歯科医療現場の現状を把握し、現場の課題を学生に示すことができたか。	4 ③ 2 1
・臨床実習では、教科で修得した理論や技術を臨床の場で応用できるよう、臨床的スキルや態度について実習できたか。	④ 3 2 1
・臨地実習では各施設の特色や利用者の特性を習得できる実習ができたか。	④ 3 2 1

① 課題

コロナ禍で臨床・臨地実習を代替実習として対応した学生に向けて、より詳細な現場の状況をイメージできる内容提示が必要。

② 今後の改善方策

引き続き、教科の学習内容と臨床・臨地実習施設での教育内容について、関係機関と協議、検討して技術革新する歯科医療現場の技術や知識を講義等に取り入れるとともに、基礎的理論に基づいた実習ができるよう、協力体制を維持していく。

また、コロナ禍の状況で臨床・臨地実習に向けて学生と個別面談を実施し、感染対策を講じながら、引き続き主体的に学べるよう支援していく。特に3年生は就職という視点も踏まえ、目指す歯科衛生士像をイメージしながら実習に臨めるよう支援していく。

③ 特記事項

コロナ禍においても臨床・臨地実習が充実した内容で継続できるよう、関係機関と連携していく。

コロナ禍で中断していた歯科衛生学会の参加を再開し、歯科業界の現状や新しい知見を学ぶ機会としていく。

【学習成果】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
・ 歯科衛生士国家試験の合格に向けた授業を実施できたか。	4 (3) 2 1
・ 地域歯科医療に貢献できる人材育成を視野に入れた教育と就職指導が実施できたか。	(4) 3 2 1
・ 職員会議等を通じて学生の学習状態や就業希望等を共有し、教員全体が共通意識のもとに対応できたか。	(4) 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成について情報提供し、学校の教育活動に活用しているか。	(4) 3 2 1

① 課題

国家試験全員合格に向けての対策の強化。

② 今後の改善方策

学生の学力に応じた個別対応メニューを組むなど、3年生だけでなく既卒者も含めた全員合格を目指して国家試験対策に力を入れていく。

また、体調不良やメンタル不調により休学、退学となるケースが増加しているため、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどのメンタルケアも行っていく。

③ 特記事項

卒後1年目の卒業生については就職報告会を開催し、就業状況や1年目の悩み、やりがい等を在校生に聴講させることで具体的な進路決定やキャリアビジョンに活用できるよう、工夫している。

(4) 学校生活支援

【生活指導、学生支援】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
・ 学生の安全管理のための取組や指導がなされているか。	(4) 3 2 1
・ 保護者からの支援体制や連携は図られているか。	(4) 3 2 1
・ 挨拶の励行や身だしなみについて TPO に合わせた指導が実施できたか。	4 (3) 2 1

① 課題

実習の身だしなみについては日々の指導で徹底されているが、日常の挨拶の励行についてはさらなる指導が必要である。

② **今後の改善方策**

引き続き、医療機関に勤務する者としての自覚を促し、社会的ルールの大切さについて臨床・臨地実習オリエンテーションを通して指導していく。

日々のホームルームや学活等で、挨拶等の指導を行っていく。

③ **特記事項**

特になし